

令和5年8月 白石市教育委員会定例会 会議録

- 1 招集日時 令和5年8月1日(火) 午前9時30分
- 2 招集場所 白石市役所4階 第4会議室
- 3 出席者 半沢教育長、佐藤委員、小室委員、鈴木委員、大橋委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明のため出席した者
学校管理課 佐藤課長 星教育専門監
山田課長補佐兼学校給食センター所長
大野課長補佐
生涯学習課 佐藤参事兼生涯学習課長
図書館 半澤館長
- 6 本委員会の書記は、次のとおりである。
大野学校管理課長補佐
- 7 開会 午前9時30分
- 8 議事日程
第31号議案 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について
(案)(継続審議)
第32号議案 令和5年度白石市一般会計補正予算(9月)の申し入れについて
(案)
- 9 前回会議録の承認について
教育長： (委員全員に諮って)承認する。
- 10 教育委員会会議録署名委員の指名について
教育長： 大橋委員及び小室委員を指名する。

1.1 教育長報告

(1) 一般事務報告

- 1 スポーツ推進委員会議（7/6）（生涯学習課長）
- 2 寄附受納式（㈱トーキン）（7/6）（学校管理課長）
- 3 文化財保護委員会（7/19）（生涯学習課長）
- 4 中学生オーストラリア派遣事業（7/24～8/2）（学校管理課長）
- 5 第9回学校教育・保育審議会（7/24）（学校管理課長）
- 6 社会教育委員の会議（7/25）（生涯学習課長）
- 7 小学生海老名市派遣事業（7/31～8/1）（学校管理課長）

（ 質 疑 ）：（ 質 疑 な し ）

教育長：（1）一般事務報告について
（委員全員に諮って）承認する。

(2) 専決事務報告

- 1 事務局職員人事案件について（学校管理課長）

（ 質 疑 ）

教育長： 人事案件につき、秘密会にて報告する。
（委員全員に諮って）全員一致で承認。 ※秘密会のため非公開

(3) その他

- 1 小中学校教育のあり方答申について（学校管理課長）

（ 質 疑 ）

小室委員： これから市民への説明等行うと思うが、丁寧に行ってほしい。
総合教育会議は、何月頃を予定しているのか。

学校管理課長： 9月頃を予定しています。

小室委員： 小中一貫義務教育学校と小中一貫不登校特例校については理解できるが、小中一貫小規模校を答申した経緯について伺う。

学校管理課長： 複数の審議委員から、大規模な学校に馴染めない子どもに対し、小規模な学校も選択肢の一つとして作ってあげたいという意見もあり3校体制とした経緯がありました。

教育長： 若者や保護者等から意見徴収を複数回実施したが、少子化という現状がある中でも、子ども達が学校を選べる選択肢を作ってあげたいと

の意見が出され、答申に反映した形となったものと認識している。

小室委員： 大勢の市民の理解を得ながら進めるという点でも、非常に良いと思う。

大橋委員： 小中一貫義務教育学校だけに（新設）と記載してあるが、どのような意味か伺う。

教育長： 本市には、現在9年間の小中一貫義務教育学校は無いため、新設と標記したものと思われる。

小室委員： 市民等へ説明する場合は、誤解を招かないよう答申書については、市の方針ではなく審議会からの答申である旨を丁寧に説明してほしい。また、答申本文中に記載してある、「市内小中学校の教育の魅力を高めるという展望を見据えて」を強調し説明して欲しい。

2 全国学力学習状況調査速報について（教育専門監）

（ 質 疑 ）

小室委員： 子ども達の学力が伸びてきているのは配布された資料を見れば一目瞭然だと思う。伸びた理由として、佐藤委員が提案した埼玉県と共同で実施したIRT学力調査を実施したことも、良くなった要因の一つではないかと思う。また、P4Cに取り組んでいることや、ICTとしてAIドリルを活用しているというのも大きな要因だと思う。さらに、英語特区の成果や指導主事を増員したことも良い結果に繋がったものと思う。

これまで実施してきた活動を再検証し、伸び方は各学校において違いがあるのかもしれないが、市全体として長期的に進めていただきたい。

佐藤委員： 埼玉県と共同で学力調査を実施する以前は、市内学校16校中9校が調査結果の検証をしていなかった。検証しないということは、何のための調査なのかが分かっていない。そのような事で、埼玉県の取り組みを紹介させていただいた。

その取り組みを進めることにより、指導主事による結果検証を実施し、その検証結果を基に各学校へ指導いただいた。

そのような取り組みが、今回の結果に表れており非常に嬉しい結果となった。

是非これからも継続して取り組み、将来は全項目で全国を上回るような白石市であって欲しいと思う。

大橋委員： 国語の点数が高くなっているが、要因として学校での読書の時間を

大切にしていることも要因の一つであると感じた。

数学については、全国的に下がっているのが気になる。要因はどのような事か伺う。

教育長： 文部科学省も見解を示しているが、全国的に数学や英語等について問題となっているのは、現在の指導方法と今回調査の問題がマッチングしていないと思われる。つまり、数学や英語等について学習指導要領で求めているものと、現場が求めているものとの間で温度差が出来ているのかもしれない。今回実施した中学3年生の調査でも、通常の授業では行わないような問題が出ている。

今の子ども達が授業の中で出会っていない問題に対して、回答することが難しかったと思われる。

大橋委員： そのような意味からか一部の小学校で取り組んでいる学習方法で、学年を超えて実施している算数チャレンジ等、そのような学習方法を増やすと、子どもたちはもっと伸びると思うがいかがか。

教育長： 算数チャレンジ等様々な学習方法はあるが、取り組み方は教育委員会として強制せずに学校側に任せている。そのような中で、今回実施した算数等の結果から考察すると、算数チャレンジに取り組んだ学校は、良い結果が出ている。

例として、ある小学校で実施している内容は、中学校の数学教員を放課後に学校へ招き様々な活動を実施している。

そのような学校については、良い結果が出てきている。このような好事例を、教育委員会の役目として、校長会や教頭会を通し情報を発信していきたいと思っている。

大橋委員： 小学校と中学校の教員が共同で活動を行うことで、広い視野で物事を見ることが出来る事は、とても良い取り組みだと思う。

鈴木委員： 今回実施した学力調査について、良い結果となった事は、とても嬉しく感じている。これも、現場教師の様々な努力の結果だと思う。

大橋委員が発言されたとおり、小・中教師の交流は大事だと思う。短期間の交流であっても、普段と違う目線で子ども達の様子を見ることが出来るし、小学校での指導方法も見ることが出来る。

また、中学校でも同じことが言えると思う。AIドリルやITを活用する指導方法についても、学習状況調査の結果を見ると学力に結びついているというのを実感した。

教育長： (3) その他について

(委員全員に諮って) 承認する。

以上

12 議 事

第31号議案 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について (案) (継続審議)

学校給食センター所長： 議事に先立ち前回の定例教育委員会にて、鈴木委員及び大橋委員からの質問について回答いたします。

はじめに鈴木委員の質問ですが、コロナ前後における残食率については、コロナを要因とした明確な変化は認められませんでした。

配食方法の変化については、感染対策の観点から、トング等を持って配食するのを先生に統一したり、おかわりが欲しい子どもは、初めに必要な量を取ったりするといった工夫をしている学校がありましたが、それによって子ども達が給食を食べづらくなったということはないと聞いております。

また、給食の時間を短くした学校もあつたようですが、黙食により集中して食べる時間が増えたと感じている学校もございました。

なお、残食率は、平成30年度にいったん下がり、令和元年度に増加した後、また下がってからは、ほぼ横ばいという状況です。

令和元年度に残食率が一時的に増加しておりますが、残食調査の時期はコロナ前であったため、原因の特定までには至っておりませんが、残食調査の期間は約一週間であり、その期間の献立が影響している可能性も考えられます。

続きまして、大橋委員からのご質問ですが、副菜の残食率が高い理由として、副菜はいわゆるサラダなどの野菜系になりますので、やはりどうしても苦手とする子どもは多いようです。

残食率を減らす工夫としては、同じ野菜でも切り方や調理方法、組み合わせる食材や味付け等によって差が出ていた部分もあることから、今後もそういった部分を工夫しながら調理をするとともに、子ども達に野菜を食べることの必要性や大切さを伝えたり、家庭での食に対する理解を推進してもらうための情報発信を工夫したりしながら、少しでも野菜に対する苦手意識を克服し、野菜のおいしさを理解してもらえるよう努力したいと考えております。

(質 疑) : (質 疑 な し)

教育長： 学校給食センター所長の回答について
(委員全員に諮って) 承認する。

鈴木委員： 事業番号2-2国際理解教育推進事業の実績について、令和4年度を見ると、白石中が203日433時間で一日あたり2.13時間、福岡中が99日190時間で一日あたり1.92時間、東中が208日705時間で一日あたり3.39時間となっている。学校間で、ALTの配置日数に対する指導時数に開きが出ているのはなぜか、参考までに伺いたい。

星教育専門監： 詳しい資料が手元に無いため、次回定例会で回答します。

教育長： 第31号議案について
(委員全員に諮って)承認する。

学校管理課長： 今後のスケジュールについて、教育に関する学識経験者による外部評価を実施した後、9月開催予定の市議会定例会に報告する予定です。

以上

**第32号議案 令和5年度白石市一般会計補正予算(9月)の申し入れについて
(案)**

小室委員： 中学校修学旅行費補助事業について、シビックプライド醸成という目的で、対象の小原中学校4名の修学旅行は非常に良いことだと思う。
しかし、今後ほかの中学校にも、この事業に対応するような修学旅行を働きかけていくのであれば、十分に時間をかけ丁寧に説明した方が良いと思う。

なぜなら、行政主導し修学旅行の行き先を指定してしまうと、教育に対する行政介入ではないか等の苦情がでる恐れがあり、働きかけるのであれば留意して進めていただきたいと思います。

教育長： 事務局で説明したとおり、修学旅行先を北海道とした場合に旅行費用が関東方面と比較するとどうしても高額になってしまうため、経済的な助成として補助事業に合致するのであれば、参加した生徒一人当たり25,000円を補助するものである。引き続き来年度以降も続けていきたいと思っている。

小室委員ご指摘のとおり、修学旅行は学校行事なので最終的に各学校長の判断で行き先を決定することになる。

教育委員会及び市の方針については、シビックプライド醸成に寄与することを目的としている為、行き先が北海道であっても、行程の中に札幌市白石区または登別市が含まれないのであれば、補助対象とはならない。補助内容について説明し理解した上で、行き先を各学校が学校行事として選択することとなる。

例えば、今年度における小学校の修学旅行については、県内の被災地を訪れる学校もあれば、福島県の会津方面に行く学校もある。あくまでも、各学校の教育課程等に基づき実施している。

補助事業についての趣旨を各中学校へ丁寧に説明することとする。

教育長： 第32号議案について
(委員全員に諮って) 全員一致で承認。

以上

13 その他

小室委員： 夏休みに入り、各地で子ども達の事故等が報道されている。福岡県では小学生が川遊びで亡くなったとの報道もあった。そのような事故は、忘れた頃に起きるのではないかと思う。

白石川等の巡視を行っているとは思いますが、引き続き対応してほしい。気温が高くなり、熱中症等についても何度も各学校に注意を呼びかけて欲しい。

教育長： 水難事故防止については、学校管理課が中心となり、定期的に白石川の巡視を行っている。さらに、7月の校長会において夏休みに校外巡視等が行われる場合の協力要請も行っている。

熱中症対策については、熱中症警戒アラートが発出した場合は、小学校のプール開放も含め、原則部活動等は中止。また、熱中症警戒アラートが発出されてないときにでも、熱中症指数を基に適切に判断すると共に、引き続き最大限の注意を払って対応する。

学校管理課長： 次回定例教育委員会については、8月30日(水)の13時30分から、第4会議室で開催致します。

以上

14 閉会 午前11時8分終了

15 本委員会の議決の結果は、次のとおりである。

第31号議案 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について
(原案可決)

第32号議案 令和5年度白石市一般会計補正予算(9月)の申し入れについて
(原案可決)

令和 5 年 8 月 1 日

署名委員 大橋 扶美子

署名委員 小室 香一